

「キリストの生き様」 ～あなたは驚き、感動がありますか？～

ピリピ3：7-9

最近、日本の若者がブランドの装飾品や車を持っている姿をよく見かけます。しかしあなたはその姿をみて身分不相応と感
じるのではないのでしょうか。それは彼らがブランド物を持つ理由が、他者に見せることで自分を大きく見せようとするためだ
からです。彼らは自分の存在をアピールするため、また、それが自分の幸せだと勘違いしてブランドに執着している
のです。では、あなたには彼らのように、なにかに執着してしまう部分はないのでしょうか？物に執着していると、本当の幸
せを手にすることができません。なぜなら私たちに大切なものは形のあるものではなく、目に見えないものだからです。では私
たちが幸せな人生を歩むにはどのようにすればよいのでしょうか。今日はそのことを、イエス・キリストの生き様から見出し
ていきましょう。では、まず質問ですが、あなたが最近感動したことは何でしょう。人から聞いたことでなく、自分自身が経
験したことのなかにありますか。人は心にゆとりがあれば、色々なことに目を向けることができ、感動をたくさん覚えるこ
とができます。しかしゆとりがなく、見る目線が下がってしまうと正しく自分を見ることができなくなってしまいます。いつも
足元を見ていると、自分がどうしたらつまづかないかばかりに心を留めるようになってしまいます。そしていつしか過去に得
た経験や知識をもとに生きるようになります。しかしそれではこれから起こることに対して感動がなくなってしまいます。も
し私たちが上を見上げ、大きく物事をみることができるようになったなら、自分の小ささを知り、自分の生き様を見よう
とすることができます。そうすると過去を見たとき、たとえつまづくようなことがあってもこれからどのように生きるか考
えることができるようになります。確かに知識が必要なこともあります。これに執着してはいけません。

次に、今あなたは自分の生き様を人々に証することができるのでしょうか。その生き様にキリストの生き様、人のために生
きた人の姿をみることができのでしょうか。神様は私たちを「素晴らしい」ものとしてつくられました。キリストの似姿として
つくられました。それは私たちがいつも喜びと感動を得るためです。もし今、人生に行き詰まりを感じているなら、それは新
しいこと、感動や喜びがないからではないのでしょうか。今、得たものや形あるもので満足していませんか。それを幸せと思
い違いをしていませんか。

新しい感動を得ることは自らの欲との戦いです。マルコ1：13-27には、イエス様が40日間荒野にいて、悪魔の誘惑を受
けた後、ペテロたちと出会い、カペナウムの会堂で人々に教えられたところが書かれています。イエス様は人の体を持ち、欲
や弱さを知りました。そのなかで人々に欲や様々な価値観を新しい感動へ変えようと言われました。カペナウムの会堂でイエ
ス様の教えを聞いたある人々は、イエス様が律法学者のようでなく権威ある者のように教えられたことを驚きました。しかし
ある人々は初めて聞く教え、始めてみる奇跡に感動を覚えます。前述の人々は物に執着し知識に生きていたため、自らの喜び
や感動を小さくしてしまいました。かたや後者の人々は純粋に目で見ただけのことに感動しました。本当に幸せな人は、物
や知識に思いを寄せていないので、それらがなくなっても困ることがなく、新しいことに日々感動する人生を歩めるので
す。

私たちの人生に驚きと感動が与えられるためには **1. 知識に執着しない** 知識に目を向けていませんか？人からの話や書物、
テレビのワイドショーなど情報社会の中に生きる私たちはその情報を何の根拠もなく鵜呑みにし、自分の知識としてしま
いがちです。そしてその知識を人と比較するためのものとし、一喜一憂します。あなたは自分が知らなくても良い情報にと
らわれていませんか？知識はあなたが生きるうえで必要に応じて神様が与えてくださいます。ですからあなたは目の前
にある知識に執着せず、神様から与えられるものを待ち望みましょう。 **2. 神を認める** イエス様は私たちと同じ肉
体を持ち、肉体の弱さを知っておられました。しかしイエス様が私たちと違ったのは、悪魔の誘惑に遭うときもいつも
神を認めていたのです。神を認めていれば、日々の生活の中にも様々な感動を見出すことができます。例えば移り行く
季節をみてあなたはどのように感じていますか。その変化に感動がありますか、それとも当たり前と思っ
ていますか。もし、日々の生活に感動できない心があるなら、当たり前と思う心があるならば、素直に神
様を認め、見つめていきましょう。そうすれば、あなたはたくさんの感動を神様が用意してくださることに
気付くでしょう。 **3. 全てを捨てる** ペテロが初めてイエス様に出会ったとき、「わたしについて来なさい」と
言われたペテロは何もかも捨ててイエス様に従いました。そして数々の奇跡を目の当たりにしました。始めは
驚きと感動の連続だったに違いありません。しかしあるときペテロは「全てを捨てて従った私たちは何が
いただけるのでしょうか」とイエス様に尋ねます。(マタ19：23-30) この頃のペテロはイエス様が奇跡を起
こすのは「当たり前」と思うようになっていたのです。そして自分でも気付かない間に自分の欲に走ってしま
ったのです。これは私たちが生きているこの世でも言えることです。私たちが感動が当たり前になると知らぬ
間に自分の欲に走ってしまいます。世の欲に目を向けず、ペテロが何もかも捨てて従ったように私たちも
純粋な気持ちで神様に従いましょう。自分のために人生を歩むのではなく、イエス様を模範に神様の与
えてくださった人生、隣人のために生きる人生を歩みましょう。そのことを通して驚きと感動のなか、あ
なたが本当の喜びと感謝をもって人生を全うすることができることを祈ります。

最後に、祖母の姉であったおばあちゃん牧師について記します。彼女はいつも教会で寝起きをし、神様の召しによりその一
生を神様に捧げ、困った人達のために生きました。彼女は近くにコンビニができると、「私のためにこんなに近くにお店を
与えてくれてありがとう」、店員さんに対しては「いつも私に優しく接してくれてありがとう」といつも感謝と喜びを
表していました。そんな彼女の姿に若い店員さんも彼女がしばらく顔を見せないと声を掛けに行ったり、バイト代で食
事を持って行ったりしてくれました。また、献金が与えられれば神様のみこころのまま、そのお金が必要な人のために
用いていました。彼女の救いに導かれ、現在牧師となられた人もおられます。そんな彼女は最期こう遺言を残され
ました。「私が死ぬことを誰にも伝えなさい。香典やお花は必要ありません。私のために悲しまないでください。もし悲
しむなら今苦しんでいる人のために泣いてあげてください。お金はその人達のために使ってください」と…彼女の生
き方はキリストの生き様そのものであったことをここに証します。

誰かに感謝される人生も素晴らしいですが、彼女のように全てを捨てて神様に従い、人のために生きる人生を私
たちも歩みたいものです。(要約者：金光 瞳)